



令和元年12月13日(金)

総合的な探究の時間(1学年)

大町岳陽高校では、「総合的な探究の時間」のひとつとして、地域理解と地域創造に関する学習を進めています。今回、大町市役所とコラボし、「まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略」(2019年度 大町市)を基に、地元・大町市の魅力/問題点/改善案を、高校生自身が考え、プレゼンする授業を行い、1年生全クラスが、この学習にワークショップ形式で臨みました。



交通インフラ(特に電車の本数)については、多くのグループから「課題あり」として声が上がっていました。日々の通学に感じる一番身近な問題なのでしょう。また、町並みについては「寂しい」「活気が欲しい」という声も上がっていました。

興味深かったのは、そうした町並みの「さびしさ」について、「独りで街を散歩すると心が落ち着く魅力がある」という見方が紹介されたことです。いわゆるネガティブ要素も、発想を転換することで魅力として発信することが可能となるというプレゼンに、関心を寄せる生徒が何人も見られました。

ローカルな問題とグローバルな問題、その両方に取り組み、「グローカル」な視点を獲得することが、岳陽高校の探究的な学びの中にあり、今回の学習もその一環として行われました。

